

ります、有名なクラプロート氏の考の如きは即ちその一つであつて、それによると、今日の哈密ハミの地は、漢代には伊吾廬といふたものであるが、伊吾廬は即ちウイグルの對音であるといふのであります^②、尙ほ同氏は漢の車師前後兩國もウイグル族の國であるといふて居ります、尤もこれは氏の以前に既に、ドグイヌ、ヴィスデロー氏等の説いた所でありますが、其の論據は極めて薄弱であります、又たユール氏は、プトレマイウスがセリカの地を流れて居る二大河流の一として擧げて居るオイカルデス河を、ウイグルの名から出たものだらうと説いて居ります^③、此の外にも尙ほかゝる考がないではありませんせぬが、今一々は擧げませぬ、併し要するに是等の説にははつきりとした論據は一つも無いやうに考へます、唯ウイグルと云ふ音と漢字で書きました伊吾廬もしくはオイカルデスなどの音とがよく似て居るから兩者同一であらうと云ふ外に何等證據がないのであります、もしかゝる考へ方をして行きますれば、此の伊吾廬などの外にも、北の方のバイカルの西の方に當つた所にもウイグルに當て得ると思はれる民族が漢代に見えて居る、史記、漢書などに見えて居る烏揭ウケツの如きはそれでありまして、其の住地から考がへて見ましてもウイグルに當てはめて一向差支えないやうに思はれるのでありますけれども、併しこれも音聲の類似以上には何等兩者の同一なることを比定すべき記録がありません、それで明かにウイグルと云ふ音を寫した文字の支那の歴史に見えて居りますのは南北朝からと云ふより致方がないと思ひます、西の方の波斯の歴史などに就てウイグルと云ふものを求めて見ましても、支那よりも更に後でなければ其の史乘に現はれて居りませぬ、支那で申しますれば元の時分にヤツと此の民族の名が見えて居る様な次第であります(地圖に就て説明す)。

此民族はどの邊に住んで居つたものであるかと申しますと、極普通に知られて居る所に依りますと、唐代此バイ